



潮田 勉
うしおだ つとむ
東京都副知事

東京2025 デフリンピックを通じた 共生社会の実現に向けて

2025年秋に東京で開催される 二つの国際スポーツ大会

経団連の全面的な協力のもと開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、ハード・ソフト両面のバリアフリー化が進み、東京全体でユニバーサルデザインがまちづくりが進展するなど、様々な大会レガシーが創出されました。とりわけ、パラリンピックの認知度が上がり、障害者スポーツに注目が集まるきっかけとなりました。皆さまのご協力で改めて心から感謝を申し上げたいと存じます。

そうした中、2025年秋には、東京で二つの国際大会が開催されます。陸上競技の祭典である世界陸上競技選手権大会、そしてデフアスリートのための総合的な国際大会であるデフリンピックです。躍動するアスリートの姿は、次代を担う子どもたちなど多くの方々に感動や興奮、そしてスポーツの素晴らしさを実感する機会となります。

デフリンピックとは

デフリンピックは、耳のきこえない、きこえにくいアスリートたちによる国際的なスポーツの祭典で、1924年にパリで第1回夏季大会が開催され、オリンピックと同様に4年に1度、夏季・冬季で開催されます。2025年の大会は、日本で初めての開催であり、デフリンピック100周年

という記念すべき大会です。東京都は、大会を招致した全日本ろうあ連盟や運営を担う東京都スポーツ文化事業団と協定を締結し、サポートを行っています。23年度に行った調査で2割弱となっており、いかに多くの方々に知っていただくが課題の一つです。

「みんなで創る」大会を

東京2025デフリンピック大会では、子どもたちをはじめ多くの方々がこの大会を知り、大会に「参画」していただけるよう様々な取り組みを行っています。その一つとして、大会エンブレムを学生が作り、中高生の投票により選定を行いました。また、クラウドファンディングによる寄附を受け付けるなど、大会の準備段階から様々な形で多くの人々が大会に触れる機会を設けています。さらに、参画を希望した全国の自治体のマスコットキャラクターからなる「東京2025デフリンピック応援隊」が各地での広報や応援役を担うことで、全国各地大会につながるよう取り組んでいます。

共生社会について考える

この大会を通じ、デフスポーツやろう者の文化への理解を促進し、年齢や障害の有無にかかわらず誰もが互いの違いを認め、尊重し合う、共生社会の実現を目指してい

きたいと思えます。

その具体策として、手話言語やデフリンピックをテーマとしたハンドブックを作成し、全国の子どもたちへ周知を行っています。また、音声テキストに変換する技術など、国籍や障害の有無にかかわらずスムーズなコミュニケーションを実現する様々なデジタル技術を活用して、「いつでもどこでも・誰とでも」つながるユニバーサルコミュニケーションを促進します。こうした取り組みにより、ろう者だけでなく、多様な方々の言語をはじめとするハードルを乗り越えていきたいと考えています。

インクルーシブな街・東京を 目指して

2025年のデフリンピックでは、デフスポーツの魅力を知り、参画してもらおうとともに、様々な違いを超えた新しいコミュニケーションが浸透することで、多様な人材が活躍できる、「全ての人が輝くインクルーシブな街・東京」の実現を目指します。また、これらの取り組みについて、機会を捉え広く全国に発信していきたいと考えています。そのためにも、パラリンピックと同様にぜひ多くの方々にデフリンピックへのご支援、ご協力を、世界陸上とともにお願いしたいと存じます。

▶陸上やり投げ



高橋 渚 選手
たかはし なぎさ
SMBC日興証券所属

私が過去の大会で一番忘れられないのが、2013年の大会です。メダル獲得の射程圏内にありながら、最後の6投目で逆転されて4位となり、悔しい思いをしました。そのリベンジを果たすためにも、初メダルを獲得することが今回の目標です。2児ママのデフアスリートである私を支えてくれた主人や家族、陸上競技の仲間たちに恩返しがしたいのです。

デフ陸上競技の魅力の一つが、スタートランプです。手のひらサイズの箱型で①「オン・ユア・マーク(位置について)」で赤、②「セット(用意)」は黄、③「スタート」で緑へとランプの色が変化します。ランプを注視し、スタートの合図と同時に走り出します。選手も観客も集中する、緊張の瞬間です。こうしたデフリンピックの魅力を多くの方に楽しんでいただきたいと思います。応援よろしくをお願いします。

▶柔道



佐藤 正樹 選手
さとう まさき
ケイアイスター不動産所属

「一般的な『柔道』と『ろう者柔道』の違いは何か」と聞かれることがあります。こうした問いに、私は「大きな違いはない」と答えます。

柔道の試合で、競技を中止する時に、審判は、片手を肩の高さで真っ直ぐ前に伸ばし、手のひらを時計係に向けて「待て」と発します。「ろう者柔道」での「待て」は、審判が選手の体をたたいて知らせます。それ以外は特に一般的な「柔道」と変わりはありません。

日本は世界的に見てデフスポーツの強豪国です。しかし国内での認知度はまだまだ低く、強化合宿や海外遠征において金銭的負担が大きい選手も多いのが実情です。デフリンピックに関心を寄せ、デフスポーツを応援していただけるとうれしいです。私も皆さんの応援を励みに東京2025デフリンピックへの出場と、金メダル獲得を目指します。

寄附・協賛募集

現在、東京都スポーツ文化事業団では、大会の準備運営に対する寄附・協賛を募集しております。

